

～高校生日本クイズ大会 下関市長賞受賞者研修旅行記～

この旅行記は、2024年7月20日に韓国・釜山広域市で開催された第10回高校生日本クイズ大会（主催：在釜山日本国総領事館、社団法人釜山韓日交流センター、下関市など後援）で下関市長賞を受賞した学生が、2025年1月22日から27日まで下関市への研修旅行を体験し、その感想をまとめたものです。研修旅行に関する学生の体験記ならびに本市職員の同行体験記をご紹介します。

1. 韓日の架け橋に

釜山 盛智高等学校 朴 睿 閔（パク イェウン）

去年の7月、「第10回高校生日本クイズ大会」が釜山で行われました。参加することだけでいい経験になると思い、私は友達と2人で参加しましたが、友達には残念にも、私には幸運にも、個人戦で下関市長賞をいただき、下関に行くことが出来ました。

日程は2025年の1月22日から27日までの5泊6日（フェリー2泊）で、新たな経験とともに様々なことを学ぶことができた、大変貴重な時間だったと思います。

いよいよ出発の日、非常にわくわくした心で家を出てからフェリーに乗るまでの時間すら楽しく感じました。フェリーに乗ってから部屋に荷物を置き、食事を終えた後、船の内をまわったりしてまた部屋に戻りました。一人部屋は大変楽で、ゆっくりすることができ、揺れる船の中でもよく眠れました。

翌日、目が覚めると船はもう下関に到着していました。船から降りてホテルに荷物を預け、火の山に向かいました。しかし、天気は良かったのですが朝は酷い霧で遠くからは何も見えないと判断し、火の山は断念して角島に向かいました。着くまで結構時間がかかりましたが、角島大橋に着くと霧はなくなり、澄んだ空と青い海が私を迎えてくれました。今まで写真で見てきた橋とは違い、実際に眺めてみると、清涼感、美しさを感じました。

次はこの橋を渡って角島に向かい、角島灯台に上がって角島を一目で見ることができました。その後、近くのお店で昼ごはんを食べて豊北道の駅、そして福德稲荷神社に寄りました。神社を見てまず感じたのは「綺麗だ」よりは「雄大だ」という感覚でした。アニメとか、写真で見てきた神社を実際に見ると、私が今日本という国に来てるんだなと実感しました。神社で買ったお守りを釜山に帰ってから見るとその時を改めて思い出し、買ってよかったと思います。



その後、ゆめシティで買い物をしてから下関市役所の国際課職員の皆さん、

中国の弁論大会の受賞者と会い、みんなで食事をしました。国際課の課長から様々なお話を聞かせていただき、海が一目で眺めることのできるお洒落なお店で、とても素敵な時間でした。そしてホテルに帰って1日目を終えました。

2日目はまず長府庭園へ向かい、着物の体験をしました。日本の伝統衣装で憧れの着物をきちんとした形で着せてもらうことは初めてでしたので、全てが不思議でした。2種類の着物を着て美しい庭園を散歩しました。



その後下関市役所へ向かいました。到着すると総合政策部の部長や国際課のみなさんが私たちを歓迎してくださいました。市長にも接見し、少しお話をしたり、お祝いの言葉をいただいたり、贈り物までいただきいい記念になりました。このような公式的な場は初めてでしたのでとても緊張しましたが、これもまたいい経験になりました。

その後、学校交流がありました。まず、梅光学院大学に行き、先生と学生2人に学校を案内してもらいました。1人は韓国語の学部の方で、日常生活が問題なくできるほどの韓国語の能力でした。その学生を見ていると、素晴らしさとともに、私ももっと頑張りたいというモチベーションになりました。交流後には、よい友達の関係になりました。

その後、最も期待していた高校交流で、下関西高等学校へ向かいました。韓国では同級生の日本人と触れ合う機会があまりなかったので、とても楽しみでした。教室に入ると、下関西高等学校の皆さんが拍手で迎えてくれました。



カルタの体験、サイコロトーク、フリートークなど、みんなと楽しめる活動でとても盛り上がりました。私と話すことでみんなが嬉しがってくれて、私もとても楽しめました。

別れる時はとても残念でしたが、後で立派な大人になってまた会うことを約束して学校交流を終えました。とてもすばらしい時間でした。

2日目の日程が全部終わり、ホームステイのお宅に行きました。そこにはホストの中部さんと猫6匹が私を待っていました。中部さんが、先ほど交流した下関西高等学校の生徒を呼んでくださり、美味しい料理も作ってくださいました。パーティーのようなとても楽しい時間でした。

次の日は、ホームステイ先で朝ご飯を食べて、いちご狩りに行きました。朝ご飯は日本の家庭食で、食べながら、私が今日本にいるのだなと再び感じました。唐戸市場に寄って海を眺めながら新鮮なお寿司を食べることができました。フグは初めてで、食べたことがない味でした。途中でドンキホーテによって買

い物をして、いちご狩りへ向かいました。その場では沢山の種類のいちごを自分で採って、すぐに食べることができました。普段の日常ではあまり行く機会がなかったので、不思議で新鮮な感じでした。いちごは甘くて、大きくて、美味しかったです。その後、垣根にいるうさぎとかヤギなどの動物に餌をやることもできて楽しい時間でした。



下関での最終日には、ホストの中部さん、そして中部さんが呼んでくださった韓国語の勉強をしている大学生のお姉さんと3人で北九州へ向かいました。車ではなく今回は船、バス、電車などを利用して移動しました。最初は門司港に行きました。早く走る小さい船の上に立って海を眺めることができました。船では涼しい風に揺られながらお姉さんと楽しく話していたことがいまだに記憶に残っています。船から降りると、レトロで魅力的な建物が目にとまり、港の前で行われているフリーマーケットに寄りました。現地の人になった気持ちで、いい経験でした。そこで買って来たバッグもいい思い出の記念品になりました。その後、いくつかのお土産のお店に寄って、下関の名物瓦そばを食べました。めんが焼かれているそばで、珍しい味でした。それ以外にもフグの唐揚げや鰻丼も食べることができました。



食事の後は電車で小倉に行きました。小倉は思っていたより都会でした。市街地を歩きながら買い物をし、小倉城に着きました。お城の中に入ることができ日本の歴史を少しでも触れることができました。春に桜が咲くと小倉城はもっと綺麗になるということを聞き、その時また来ることができたらと思いました。

あっという間に時間が経ち、最後にもう一度買い物をし、釜山へ帰る時間になったので下関港に行きました。お二人にお土産もたくさんいただき、港まで送ってもらいました。別れる時はとても名残惜しい気持ちでした。でもまたいつか会えることを楽しみに、帰りのフェリーに乗りました。

今回の機会で様々な体験をしたり、国際課職員の方々を近くで見ることで、後に大人になってから私も日本と韓国をつなぐような仕事をしたいと考えるようになり、もっと日本語の勉強をがんばっていこうという気持ちになりました。クイズ大会を通じてこんな貴重な経験ができて本当に嬉しいです。日本で、下関で色んな人々に触れ合い、色んなことを感じて、見て、体験することができました。今回の経験を通じて私の日本に対する興味は一層強固なものになりました。本当に素敵な経験でした。いろんなことを学び、忘れられない思い出を作りました。またもう一度下関に来られたらと心から思います。

2. 下関市長賞受賞者下関研修旅行を終えて

下関市総合政策部国際課 釜山広域市派遣職員 松村康代

本研修は、令和6年7月20日に釜山広域市内で開催された「第10回高校生日本クイズ大会」にて個人戦で優秀な成績を収め、下関市長賞を受賞した高校生を下関へ招待し、下関や日本について知ってもらうために実施されました。

クイズ大会では日本語、日本文化など日本について幅広い問題が出題され、今年度は盛智高等学校のパク・イエウンさんが受賞しました。本人の希望で日本語での意思疎通を行いました。が、会話やメッセージのやりとりではさすが賞を受賞するだけあり、流暢な日本語を駆使する優秀さには感嘆せざる得ませんでした。

パク・イエウンさんは、日本に何度か旅行へ来たことがあるそうで、釜山出発の際も慣れた趣でした。とはいうものの、下関への訪問は初めてで、研修の間、初めての事も多く経験したため大変だったかもしれません。しかし、それだけ充実した下関の滞在になったことと思います。

下関では、角島大橋や福德稲荷神社、赤間神宮など魅力的な観光地に寄った他、多くの体験をしました。この間、釜山広域市からの派遣職員であるパク・ジョンミン氏も同行し、いろいろと協力していただきました。

市役所での市長表敬訪問の際、パク・イエウンさんは緊張していたとのことですが、そういうことを微塵も感じさせない堂々とした姿は凛々しく映りました。

長府庭園では日本の伝統衣装の着付け体験を行いました。が、とても嬉しそうな様子でした。中国の弁論大会での下関市長賞受賞者であるイ・セイトウさんと一緒に体験をしました。が、仲良く写真に映っていたことが今でも鮮明に記憶に残っています。

梅光学院大学や山口県立下関西高等学校での学校訪問では、年齢が同じくらいの生徒や学生との交流に楽しく言葉を交わしていました。梅光学院大学では、構内の案内をしてくれた学生と一緒に食事をしたり、日本語の授業に参加しました。日本語の授業では真剣に聞き入り問題を解いていました。

下関西高等学校での交流は、パク・イエウンさんが一番期待していると話していたとおり、すぐに生徒の皆さんと仲良くなり、嬉しそうに話をしていたのがとりわけ印象的でした。学校交流はとても盛り上がり、パク・イエウンさんも、下関西高等学校の生徒の皆さんも笑顔がいっぱいで、教室が熱気を帯びました。

ホームステイでは、ホストファミリーのおもてなしに、肩の力を抜いたひと時のようでした。ホストファミリーと一緒にいる間は、下関や周辺地域の観光の他、下関の名物・瓦そばを食べたり、学校交流で出会った下関西高等学校の生徒や韓国語を勉強している大学生との交流を楽しんだとのことでした。

今回の研修を通じて、パク・イエウンさんにとって、単なる旅行では経験す

ることのできない様々な体験ができたのではないかと思います。研修の実施にあたり、多くのサポートを受けました。お忙しい中準備をいただき、また、篤いおもてなしをしていただきました。お力添えをいただきました皆様の厚意には感謝するばかりです。改めて御礼を申し上げます。

私自身、10代の頃に釜山へ行き、地元の高校生と交流をしたことから韓国に興味を持ち始め、こうして現在、派遣職員を務めることにもなりました。インターネットなどを通じて外国の文化を知ったり、人々の交流をすることが容易になった時代ですが、実際に現地に足を運び対面でふれあう大切さはいつの時代においても変わりません。パク・イエウンさんにとって、また、協力していただいた方、出会った方にとって、本研修が今後の人生の糧になればと願います。